

〈論文〉

アイヌ語虻田方言の英雄叙事詩(yukar)テキストとその言語的特徴⁽¹⁾

佐藤 知己

- 目次
1. はじめに
 2. 英雄叙事詩テキストにみられる虻田方言の言語的特徴
 2. 1. 音声的特徴
 2. 2. 文法的特徴
 2. 2. 1. アスペクト的表現について
 2. 2. 2. 動詞接尾辞 -ci の用法
 2. 3. 語彙的特徴
 3. 英雄叙事詩テキスト
 3. 1. 英雄叙事詩テキスト本文
 3. 2. 英雄叙事詩テキスト注釈
 3. 3. 英雄叙事詩テキスト索引
 4. おわりに
- 参考文献

キーワード：アイヌ語虻田方言、英雄叙事詩、文法、語彙

1. はじめに

北海道開拓記念館蔵更科源蔵氏録音テープ（no. 897352）の虻田町（現・洞爺湖町）遠島タネラシケ氏による英雄叙事詩テキストを検討し、その言語的特徴を述べる。また、テキストを文字化し、翻訳と注釈を施した。なお、この録音テープは物語の途中までで終わっており、続きの部分の録音もあるのかどうかはいまのところ未確認である。今後、確認作業を進め、あらためて報告を行いたいと考えている。

(1) 本稿は科学研究費（基盤研究(c)、「古文書によるアイヌ語史の構築」、研究代表者北海道大学大学院文学研究科 佐藤知己、課題番号17520245）による研究成果の一部である。資料の発表を許可して下さった遠島タネラシケ氏のご遺族、資料所蔵者の北海道開拓記念館に深く感謝申し上げると共に、貴重な録音を残して下さった更科源蔵氏に深い敬意と感謝を表したい。

2. 英雄叙事詩テキストにみられる虻田方言の言語的特徴

遠藤氏の言語に関する特徴については、既に佐藤 (2008) で暫定的な指摘を行ったが、ここではさらに新しい資料を加えて例を補充し、併せて新たに見いだされた点についても報告する。

2. 1. 音声的特徴

佐藤 (2008 : 2) で既に述べたように、／su／が非常にしばしば [ʃu] と発音されている点が特徴的である。特に kusu「ので」はほとんどの場合 [kuʃu] に近く発音されている (訳注参照)。しかし、確かな例ではないが、ronnaso「上座」と思われる例において so が [ʃo] と発音されている例があることが注目される。いずれにしてもまだ例が少ないので確定的なことは言えないが、a や e の前ではみられない [ʃ] が u や o の前では見られる理由は何か、今後も他の資料を加えつつ検討して行きたい。なお、この現象は特に江戸時代の文献に見られる sa、su、so に対応する「シヤ」、「シユ」、「シヨ」という表記の問題を考える上で重要であると思われる (佐藤1995 : 10-11)。

佐藤 (2008 : 7) では「わたり音挿入」について述べたが、今回扱ったテキストにも次のような例が現れる。

y の挿入の例 :

(1) yaykoi-y-omare「自分で酒を注ぐ」(l. 532) ⁽²⁾

佐藤 (ibid.) は、si-「自分」が幌別方言では y の挿入を引き起こさないことを述べ、虻田方言でも si- の後で y の挿入が起こっていないことを指摘した。この点から、si- の例がないかどうか注目されたが、残念ながら今回のテキストには現れていないようである。今後も資料を加えて仮説の検証に努めたい。

2. 2. 文法的特徴

2. 2. 1. アスペクト的表現について

佐藤 (2008 : 6-7) で述べたように、この方言には動作の継続を表す kor okay、結果の継続を表す wa okay (または wa an) という二つの形式があり ⁽³⁾、今回扱ったテキストにもこれらの形式が現れる。

(2) 以下、出現箇所の行数をこのように示す。

(3) an は「いる、ある」の単数形、okay は複数形であるが、このテキストでは単数の意味と思われる箇所でも複数形が用いられている場合があり問題がある。今後の検討課題である。

kor okay の例：

- (2) rek kor okay (l. 46)

鳴く て いる

「鳴いている」

- (3) a-nukar kor oka-an ayneno (l. 101)

私が-見る て いる-私が あげく

「私がみていたあげく」

wa okay (wa an) の例：

- (4) rok wa okay (l. 192)

座る て いる

「座っている」

- (5) okay wa okay (l. 551)

いる て いる

「(たまたま) いた」

- (6) yaykoan wa an wa (l. 481)

1人である て いる て

「1人で暮らしていて」

okay「いる」、yaykoan「1人である」のような状態を表すと思われる動詞に、結果の継続の形式である wa okay、wa an が現れているのは興味深い。佐藤（2007：48）では、このような場合、一時的な状態を表すのではないか、という推測を述べたが、上の例でも、okay wa okay は「我慢している」という事態に対して用いられており、「一時的にそうしている」という表現と矛盾しないと考えられ、yaykoan「1人である」も「一時的状態」と考えられるので、やはり矛盾しない例と考えられる。今後もさらに資料を加えて検討を続けたい。

アスペクト専用の形式では必ずしもないが、関連する形式として kane「つつ、ながら」という形式がこのテキストには現れる。佐藤（2002）は、この形式の基本的な性格を「比況」と規定して説明したが、このテキストにおける kane の用法も概略、説明可能ではないかと思われる。すなわち、以下の例からわかるように、「(実際は別として) あたかもそうであるかのように、(極端に言えば) そうであるくらい、まさしくそのままと言ってよいほどに」という意味を表している。

- (7) usa tuci a-se kane rap-an (l. 71)

も 槌 私が-背おう つつ 下りる-私が
「槌も私が背負ったまま私が下りる」

- (8) urar ruyka a-turi kane (l. 136)

霞 橋 私が-伸ばす つつ
「霞を（あたかも）橋のように私は伸ばして」

- (9) kamuy takaramono esik kane (l. 182)

神 宝物 いっぱいになる つつ
「神の宝物でいっぱいになるほど」

- (10) rureye kane (l. 72)

半ば這う つつ
「半ば這うようにして」

- (11) menokoa a-ki kane (l. 497)

女座り 私が-する つつ
「私は女座りをしたまま」

kor okay、wa okay (an) が用いられ、kane が付帯状況的な意味というよりはむしろ比況の意味で用いられる、という点で、虻田方言は沙流方言、千歳方言と共通する特徴を有すると言える。

アспектに関わる表現として、他に anki「今まさにしようとする」という形式が現れる点も注目される。

- (12) paye-an anki (l. 113)

行く-私が ようとする
「私が行こうとする」

- (13) sakehawki anki (l. 545)

サケハウキ ようとする
「サケハウキをしようとする」

田村（1996：13）では anki を接続助詞としており、佐藤（2008：80）でも接続助詞である可能性について触れている。中川（1995：24）は anki を助動詞としているが、中川が挙げている例は

いずれも接続助詞とも解釈が可能なもので、問題を残している。本テキストにおける例は一見助動詞のようにも見えるが、英雄叙事詩という性格上、一行の音節数に関する文体的制約が大きいため、通常の表現の枠組みから逸脱した省略的な表現になっている可能性を考慮する必要もあると思われる。なお断定的なことは言えないと思われる。虻田方言における anki の意味および文法的性格については今後も検討が必要である。

2. 2. 2. 動詞接尾辞 -ci の用法

佐藤（2008：5）において、-ci という動詞接尾辞について触れ、以下のような例から、主語の複数を示す可能性を示唆した⁽⁴⁾。

- (14) cip oske ta iki-ci siri (佐藤 2008：31)

船 中 に そうする 有様

「船の中でそうする有様」

主語は「kamyasi utar 異国人達」で複数。

- (15) wakkaesat a-ki-ci ki wa (佐藤 2008：32)

水に干上がる 私達が-する する て

「水に関して干上がってしまうことを私達はして」

主語は「私達」で複数。

- (16) inu-ci wa i-korpare yan (佐藤 2008：33)

聞く て 私に-与える なさい

「聞いて下さい」

主語に当たるものは「あなたがた」と考えられるので複数か。

- (17) itak-ci ki wa (佐藤 2008：33)

話す する て

「話して」

(4) 知里 (1974 [1936] : 63) は「併し乍ら特に複数なることを明示しようとする時は -pa を接尾させる… (中略) …胆振では稀に -chi を用ゐる。kar-chi. ki-chi。」と述べている。この説明は虻田方言においても基本的には正しいと考えられるが、以下で示すように例外的な事例や疑わしい事例もあり、全く問題がないわけではない。

この例ははっきりしないが、「ボートに乗っている異国人達」と考えられる例。

- (18) *somo ki-ci* (佐藤 2008 : 33)

ない する

「しない」

主語は「異国人達」で複数であろう。

- (19) *ramusinne-ci* (佐藤 2008 : 34)

安心する

「安心する」

主語は「異国人達」で複数であろう。

- (20) *too hereporaye isam-ci ko* (佐藤 2008 : 34)

ずっと 沖に出る いなくなる と

「ずっと沖に出てしまうと」

主語は「異国人達」で複数であろう。

- (21) *iku-an-ci ayne* (佐藤 2008 : 35)

酒を飲む-私達が あげく

「私達が酒を飲んだあげく」

主語は「*a-utari hemem* 私の一族も」で複数。

今回分析した英雄叙事詞テキストにも *-ci* の例がいくつか現れる。

- (22) *a-nu-ci ki korka* (247)

私達 (?) が-聞く する けれど

「私達が聞くけれど」

単複は必ずしもはっきりしないが、*caca* と *rupnemat* が出てくるので、主語は複数の可能性がある例。目的語は *rek haw* 「鳴く声」だから複数の可能性がある。

(23) a-nu-ci ki ko (254)

私が-聞く する と

「私が聞くと」

これは求婚を断られて主人公が怒る場面であるから、主語は単数と解釈するのが妥当な例。目的語は itak hawe 「言う声」だが、単複の可能性に関しては何とも言えない。

(24) a-nu-ci ki ko (470)

私達(?)が-聞く する と

「私達が聞くと」

kamuy itak haw 「神がしゃべる声」が目的語で、聞いているのは自分と兄の二人。主語の複数とも考えられる例。

(25) ki-ci korka (257)

する けれど

「するけれど」

wen kinra ne ikohetari 「激しい怒りとなって私に湧き起こる(?)」という意味の句を受けていると考えられる。助動詞的な用法とも考えられ、主語がはっきりしない例。

(26) ki-ci korka (546)

する けれど

「するけれど」

sakehawki anki 「サケハウキをしそうになる」を受けているが、主語に当たるものは a-yuptonoke 「私の兄上」で、単数である。

(27) u ki-ci oro wa (508)

する それ から

「して、それから」

kamuy ne an pe 「神のような者」と a-yuptonoke 「私の兄上」が主語と考えられる例。また、目的語は ukoonkami 「互いの礼拝」、mat onkami 「女性の礼拝(?)」の二つである。

(28) a-ne-ci (308)

私達がーである

「私達が？である」

これは poyyaunpe と自分が heru kamuy「神様同士」である、と言っているので、主語の複数の例か。

(29) iki-ci ki ko (387)

そうする する と

「そうすると」

これは「兄が私を急かす」という文脈の後に置かれて、「そうすると」という意味を表している例。

(30) iki-ci ki ko (512)

そうする する と

「そうすると」

これは、直前に orokioroki という不明の形式があるため、手がかりが少ないが、文脈から考えると主語に当たるものは「ポイヤウンペと私の兄上」の二人のようである。

(31) ku-ci ki ko (540)

飲む する と

「飲むと」

主語は「私の兄上」と考えられるが、「ポイヤウンペと私の兄上」の二人とも取れないことはない。目的語は「酒」である。

以上の例を見ると、大部分が主語の複数と解釈してよい例であるが、稀に明白に単数と考えられる例もあり、依然問題を残している。この問題に関しては、動詞の複数形の使用方法も問題となると思われる。今後も他の資料から例を蓄積して検討を続けたい。

2. 3. 語彙的特徴

方言的に重要な語形としては、puray「窓」があげられる。この形式は本テキストに6回現れる。服部（1964：103）によれば、この形式は幌別方言の形式とされており、予測される通り、地理的

に近い幌別方言との語彙的類似を示す例と言える。

oka「ある、いる」と okay が両方現れる点も注目される。服部(1964:150)によれば、oka は沙流方言で報告されている形式である。なお、千歳方言においても pe「もの」の前以外は oka という形式が用いられる(佐藤 2008:102)。両者の混在は話者の遠島氏の言語、および虻田方言の方言的位置付けを考える上で重要な事実である。両者の使い分けや使用頻度について、今後もさらに他の資料を蓄積して検討する必要がある。

方言の変種とみられる基本語彙に関わる語形の混在の例としては、他に一人称代名詞の anokay、aokay の混在があげられる。この点については既に佐藤(2008:5)においても指摘したところであるが(aokay 4例、aonokay 2例)、本テキストにもこの現象が現れたことによって、虻田方言における「ゆれ」の実態が一層確実に言ったと言える。ちなみに本テキストにおける出現状況は、aokay 4例に対して anokay 1例である。用例がいまだ少なく確定的なことはやはり言える段階にないが、人称代名詞のような基本中の基本とも言うべき語の語形にゆれがある、という点は、周囲の方言の状態とともに、今後も検証すべき問題と言える。

mataki (ihi) は、matak の所属形と考えられるが、服部(1964:43)によれば、沙流、帯広、美幌、名寄、宗谷の各方言において、この形式は「女からみた妹」の意であり、「男からみた妹」は tures という形式であるという。ところが、本テキストにおいては、poyyaunpe matakhihi「ポイヤウンベの妹」という例から明らかなように、「男からみた妹」の意で用いられている。これが単なる誤りであるのか、あるいはこの地方の方言ではこのような表現が普通であるのか、今後も他の資料の検討によって明らかにしていく必要がある。ちなみに、虻田方言に地理的に近い幌別方言について、服部(1964:43)は matak という形式を提示するのみで沙流方言その他に対するような「女からみた」のような指示を行っていないのは、不明、もしくは未調査とも考えられるが、ある意味示唆的である。

本テキストには、目的語が他動詞に合成された形式(名詞抱合)の例がいくつか現れる。例: mosirkar「国を作る」、kotankar「村を作る」、sapasina「頭をしぼる」、purayseske「窓を閉じる」。佐藤(2008:3-4)では、名詞抱合ではないが、否定の副詞 somo が動詞に合成される例として、somoie「言わない」(somo「ない」+ ye「言う」とい形式が現れることを指摘しているが、本テキストにも、somasarare「開けない」という例が現れる。このような形式が虻田方言の否定表現全体の中でどういう位置づけを占めるものなのか、今後も検討が必要であろう⁽⁵⁾。

本テキストには、千歳方言にも現れる ne wa an「例の、その」に相当すると思われる形式が現れる(ne wa an l. 104, 131, 220, 246, 538, 549, ne wa okay l. 268)。しかしながら、注においても述べたように、これらの実際の発音はこれまでのところ一貫して[inewaan]、[inewaokaj]のようなものであって、頭に[i]のような母音が付いたものとなっている。これは、意味のない

(5) 佐藤(2008:33)には、否定の副詞として henne という形式が現れる。この形式は、様似方言(岡本ユミ氏による)にも現れる。胆振西部の方言と日高最東部の方言が類似した語形を有することは言語地理学的に見ると非常に興味深い。

挿入的母音である可能性もあるが、今のところ一例だけとはいえ、l. 246のようなメロディーを伴わない発音においてもはっきり [ine] のように発音されている例がある点から考えると、この形式は千歳方言のような他方言の ne wa an のように解釈すべきではなく、ine wa an のような形式として解釈すべきものである可能性がある。ここでは可能性を指摘するにとどめ、今後も検証に努めたい。

3. 英雄叙事詩テキスト

以下に文字化した英雄叙事詩のテキスト本文を翻訳と共に示す。言うまでもないが、筆者の能力不足による誤り、思い違いも多数あると思われる。識者のご教示をお待ちする次第である。なお、筆者は狭義のアイヌ口承文芸の専門家とは言えないので、内容について詳しくコメントする資格はないが、ごく一般的なレベルで考えてもこの英雄叙事詩は内容的に幾分特異な特徴を持っているように思われる。主人公（自叙する主体）は mosirkarkamuy 「国を造る神」で、通常の英雄叙事詩の主人公である poyyaunpe は、登場はするものの、あくまでも登場人物の一人に過ぎない。この英雄叙事詩の解説と思われる記述が更科（1981: 12-16）にあるが、採録者の更科氏も、この英雄叙事詩がアイヌ文学の一般的な内容から考えると、幾分特殊ではないか、という趣旨の意見を述べておられる。今後、なお広い見地から、内容の検討が行われることを期待したい。

3. 1. 英雄叙事詩テキスト本文

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1: eyererope | 10: a-uwanpare |
| 2: aynu kotan | 私は注視した |
| 人間の村を | 11: u inkar-an ko |
| 3: a-kar kusu | 私が見ると |
| 私は造るために | 12: nekona ne yakka |
| 4: u kanto oro wa | どうしても |
| 天から | 13: kotankar a-ki |
| 5: u rap-an ki wa | 村造りを私がし |
| 私は下って | 14: mosirkar a-ki |
| 6: nupuri ka ta | 国土作りを私がし |
| 山の上に | 15: somoki ko anak |
| 7: okay-an ki wa | ないと |
| 私はいて | 16: aynu kotan |
| 8: mosir kurka | 人間の村が（いつ） |
| 国土の上 | 17: hepuni usi |
| 9: kotan kurka | 興る時（が来るか） |
| 村の上を | 18: a-eranpewtek |
| | 誰にもわからない |

- | | |
|---|------------------------------------|
| 19 : yaynu-an wa
と私は思っ | 38 : a-uwanpare
私は注視した |
| 20 : nupuri ka wa
山から | 39 : inkar-an wa
私が見て |
| 21 : rap-an kusu
私は下りるために | 40 : okay-an ciki
私がいると |
| 22 : ikori ka ta
イコリの上に | 41 : usayne kane
なんとまあ |
| 23 : u rap-an ki wa
私は下りて | 42 : siruscikappo
ヤマゲラが |
| 24 : ikori ka ta ta suy
イコリの上に | 43 : u arki ki wa ta suy
やって来て |
| 25 : u rok-an wa
私は座って | 44 : pir ka ta u rok wa
渦の上に座って |
| 26 : uwanpare-an ko
私が注視すると | 45 : saraha citurituri
尾がずっと伸び |
| 27 : usayne kane
なんとまあ | 46 : u rek kor okay
鳴いている |
| 28 : atuy ka somo ne
海ではない | 47 : oro wa ta suy
そして |
| 29 : yaci ka somo ne korka
谷地ではないけれど | 48 : ahurasanpe
コノハヅクが |
| 30 : atuy ne wa an pe
海であったものが | 49 : u arki ki wa
やって来て |
| 31 : niwrotkerotke
沸き立っている | 50 : poro sikihi
大きな目を |
| 32 : nupki
白濁した | 51 : inkar kusu
見るために |
| 33 : atuy ne siri
海になっている有様を | 52 : tokoko ki wa
見開いて |
| 34 : a-nukar kusu
私は見るために | 53 : ha inrapparappa
瞬きを |
| 35 : ko nep ta ki
なんとまあ | 54 : u ki wa kusu
したので |
| 36 : mosir ka ta
国土の上で | 55 : yaynu-an ko
私が思うに |
| 37 : kotan kurka
村の上を | 56 : nekona ne yakka
どうしても |

57 : aynu kotan
人間の村が

58 : hepuni usi
興る時が

59 : a-esanniyo
わかった

60 : ki wa ta suy
そうして

61 : u suma tuci
石の槌

62 : kani tuci
金属の槌を

63 : a-kar ki wa
私は作って

64 : kanto ot ta
天に

65 : hosippa-an wa
私が戻って

66 : kani tuci
金属の槌を

67 : a-kar ki wa
私が作って

68 : kani nomi
金属の鑿

69 : usa nomi
色々な鑿

70 : usa tuci
色々な槌を

71 : a-se kane
私は背負ったまま

72 : u rap-an
私は下った

73 : ki wa ta suy
そうして

74 : mosirkar
国土を作る

75 : tuci ari
槌で

76 : atuy kurka
海の表面を

77 : a-uwanpare
私は注視した

78 : inkar-an ko
私が見ると

79 : ahurasanpe
コノハヅクが

80 : kik koraci
叩く通りに

81 : atuy kurka ta
海の表面で

82 : omanan hi neno
往来する通りに

83 : peker atuy ne kuni
澄んだ海になると

84 : a-esanniyo
わかった

85 : oro wa ta suy
そうして

86 : kunne hene
夜も

87 : tokap hene
昼も

88 : mosirkar-an
私は国土を造った

89 : kotankar-an na
私は村を造った

90 : inkar-an ko
私が見ると

91 : too rep ta
遙か沖に

92 : kani nupuri
立派な山

93 : konkani nupuri
黄金の山が

94 : u as konna
立つ有様こそ

- | | |
|------------------------------------|---|
| 95 : kinnatki ko
立派であったが | 114 : yaynu-an yakka
私が思っても |
| 96 : kurkasi
その上を | 115 : a-ki monrayke
私の仕事を |
| 97 : a-uwanpare
私は注視した | 116 : a-okere pakno
私が終わるまで |
| 98 : kani casi
立派な城壁が | 117 : inkar-an ranke
何度も私は目をやり |
| 99 : kani cise
立派な家を | 118 : monrayke kosicari
仕事に精を出すこと |
| 100 : okari kane
囲んでいて | 119 : mosirkar kosicari
国土造りに精を出すことを |
| 101 : a-nukar kor
私が見て | 120 : a-ki ayneno
私はし続けてとうとう |
| 102 : oka-an ayneno
いたあげく | 121 : too
ずっと |
| 103 : too
遙か | 122 : pirka ota
美しい浜 |
| 104 : ne wa an pe
それを | 123 : kurka
の上を |
| 105 : a-nukar oro wa
私が見た、そして | 124 : a-okere wa
私は造り終えて |
| 106 : ko nekona
どう | 125 : oro wa tapne
そうして |
| 107 : u sirkop hetap ne
化け物であるか | 126 : pirka usi
美しい所 |
| 108 : kamuy hetap ne
神様であるか | 127 : or pakno
まで |
| 109 : u aynu hetap
人間であるかが | 128 : paye-an oro wa
私は行ってそして |
| 110 : horari katu
住む有様を | 129 : ko nekona
どうし |
| 111 : a-nukar ciki
私が見て | 130 : an yakka
ても |
| 112 : or un tane tane
そこへ今すぐ | 131 : ne wa an nupuri
あの山を |
| 113 : paye-an anki
私が行こうと | 132 : a-kosinewe
私は訪れようと |

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| 133 : a-eyaykosiramsuye
私は考えて | 152 : eatterke ta
一っ飛びに |
| 134 : oka-an pe ne kusu
私はいたものだから | 153 : ne nupuri
その山 |
| 135 : sinean to ta
ある日 | 154 : nupuri cinka
山の |
| 136 : urar ruyka
霞の橋を | 155 : kurkasike
上に |
| 137 : a-turi kane
私は伸ばして | 156 : a-epa wa
私は着いて |
| 138 : ne
その | 157 : ahup-an kusu
私が入ろうと |
| 139 : kamuy he okay
神がいるのだから | 158 : iki-an yakka
私がしても |
| 140 : aynu he okay
人間がいるのだから | 159 : ko ne ru ta suy
どの場所が |
| 141 : cise un ruwe
家があるところ | 160 : apa ne ki ya
入り口であるのか |
| 142 : konkane cise
黄金の家 | 161 : ko ne ru ta suy
どの場所が |
| 143 : konkane cise
黄金の家 | 162 : puray ne ki ya
窓であるのか |
| 144 : konkani casi
黄金の砦 | 163 : a-eranpewtek
私はわからなかった |
| 145 : kosituri wa
に向かって伸びて | 164 : ki wa kusu
それだから |
| 146 : okay kusu
いるので | 165 : tu wan re suy
何度も |
| 147 : or un tapne ka
そこへ | 166 : cise okari
家の周りを |
| 148 : uran ruyka
霞の橋を | 167 : iki-an ayne
私は回ったあげく |
| 149 : a-turi kane
私は伸ばして | 168 : puray koraci
窓のように |
| 150 : paye-an kor
私が行き | 169 : rik un puray
天窓が |
| 151 : oka-an ayneno
続けたあげく | 170 : apa o
戸が付いた |

171 : puray ne kusu
窓であったので

172 : puray koraci
窓のように

173 : okay
あった

174 : a-numposore
私は通り抜けた

175 : ahup-an ki wa
私は入って

176 : inkar-an ko
私が見ると

177 : somo aynu ne
人間ではなかった

178 : kamuy ne kusu
神様であるので

179 : kamuy koraci
神様のような

180 : kamuy ikor
神の宝

181 : kamuy takaramono
神の宝物

182 : esik kane
で一杯になって

183 : okay ki wa
いて

184 : yaykatanuno
恐縮しつつ

185 : rera koraci
風のように

186 : horaociwe-an
私は下りた

187 : apesam ta
炉の側に

188 : u rok-an wa
私は座って

189 : kamuy
神の

190 : caca hemem
老人も

191 : rupne mat hemem
老婦人も

192 : rok wa okay
座っている

193 : cise kor kamuy
家の神

194 : a-koyaykatanu yakka
に対して私は恐縮したけれども

195 : tapne
このように

196 : yaynu
思うことを

197 : a-ki kusutap
私がしたこと

198 : sirepa-an i
私が到着したことを

199 : a-eisoitak
私は物語った

200 : ki awa
すると

201 : ayakannata
なんとまあ

202 : mosir kar kamuy
国土を造る神が

203 : kotan kar kamuy
村を造る神が

204 : nen monrayke siri
誰が働いている有様なのかも

205 : esiknak ki wa
見えないで

206 : okamkino
わざと

207 : tapne
このように

208 : apasinasina
戸口を縛ること

- 209 : purayseske-an
窓を閉めることを私達はして
- 210 : a-somosarare no
私達は開けないで
- 211 : okay-an ko
私達はいて
- 212 : tu wan re suy
なんども
- 213 : cise okari
家の周りを回った
- 214 : ki ayneno
あげくに
- 215 : tuypu
(不明)
- 216 : cise ka kitay
家の屋根
- 217 : kitay, cise kitay
家の屋根
- 218 : un puray
の窓が
- 219 : a-sarare wa
開けられて
- 220 : ne wa an pe
それが
- 221 : u pawci kusu
夜這いしに
- 222 : u ahup siri ne
入ってくる有様である
- 223 : ene iki
このようなことを
- 224 : epitta tapne
全部
- 225 : a-kusnanukar
私は見通して
- 226 : okay-an awa
私はいたが
- 227 : yaynu siri hene
考えていることでも
- 228 : epitta tapne a-eramuan ru wa okay-an
ruwe ne na
全部私はわかっているのだぞ
- 229 : nekona e-matkon rusuy
どんなにお前が妻をほしがっているのか
- 230 : a-poho anak
私の子は
- 231 : heru kamuy ne
神同士
- 232 : pon i wano
幼い頃から
- 233 : okkayo
男
- 234 : okkayo kor pe
男の持ち物と
- 235 : emkota suy
早くから
- 236 : a-oresu na
育てられるのだぞ
- 237 : a-poho anak
私の子は
- 238 : menoko kor pe
女の持ち物と
- 239 : heru kamuy ne
神同士
- 240 : emkota suy
早くから
- 241 : a-oresu wa
育てられて
- 242 : pon i wano
幼い頃から
- 243 : hokuerman
夫になるものを知り
- 244 : materaman
妻になるものを知り
- 245 : u ki wa okay awa
そうしているが

- | | |
|---|--|
| 246 : mosir kar kamuy ine wa an pe esiknak ki wa
ek wa tapne rek haw
国土を造る神はそのことが見えないで来てこ
のように鳴き声を | 264 : a-kosirepa
私は着いた |
| 247 : a-nuci ki korka
私達は聞くけれど | 265 : oro ta kayki
そこで |
| 248 : ene kayki
このように | 266 : yaynu-an ko
私が思うに |
| 249 : hetce usi
承諾することは | 267 : ene wa kayki
このように |
| 250 : oarar isam
何もない | 268 : ne wa okay
その |
| 251 : u ki na ari
のだぞと | 269 : a-eranpewtek no
私が知らずに |
| 252 : kamuyranpe
神が | 270 : iki-an oro wa
私がやって、そして |
| 253 : u itak hawe
言う声を | 271 : toy yayekus
ひどい恥じ入り |
| 254 : a-nuci ki ko
私は聞くと | 272 : toy yastoma
ひどい羞恥を |
| 255 : wen kinra ne
激しい怒りが | 273 : a-ki wa
私はして |
| 256 : ikohetari
わき起こった | 274 : hosippa-an ki wa
私は戻って |
| 257 : kici korka
そうではあるけれど | 275 : okay-an oro wa
私はいて |
| 258 : yayekus kamuy
恥じ入る神で | 276 : yaysinire a-ki oro wa
休むことを私はして |
| 259 : a-ne kusu
私はあったので | 277 : yaysinire
休むことを |
| 260 : somo atasiri wano
…ないでそれから | 278 : yaysinire a-ki oro wa
休むことを私はして |
| 261 : soyonpa-an wa
私は外に出て | 279 : a-kor monrayke
私の仕事を |
| 262 : arki-an ayne
私は来て、とうとう | 280 : a-ki
私はした |
| 263 : pirkausi
ピリカウシに | 281 : u kunne hene
夜も |
| | 282 : tokap hene
昼も |

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| 283 : a-kosicari
私は精を出した | 302 : poyyaunpe
ポイヤウンベ |
| 284 : okay-an ayne
私はいたあげく | 303 : ne kotomno
らしく |
| 285 : mosir okere
国土の造り終え | 304 : a-nukar usi
見えるところが |
| 286 : kotan okere
村の造り終えを | 305 : an wa kusu
あったので |
| 287 : a-ki okere
私はやり終えた | 306 : nispa koraci
紳士らしく |
| 288 : oro wa ta suy
そして | 307 : heru kamuy
神同士で |
| 289 : kanto or un
天へ | 308 : a-neci
私達はある |
| 290 : hosippa-an kusu
私は戻ろうと | 309 : kusutap ne
ので |
| 291 : hosippa-an ayne
私がずっと戻って行くと | 310 : a-koonkami
私は礼拝した |
| 292 : aputa kotan
アプタの村の | 311 : onuytasa
交代に |
| 293 : kurkasike
上を | 312 : i-koonkami
彼は私に礼拝した |
| 294 : a-kus ki awa
私が通ると | 313 : oro wa tapne
そうして |
| 295 : hemanta an pe
何かの | 314 : u itak hawe
言うことを |
| 296 : kurihi tapne
影を | 315 : a-nu ciki
私が聞くと |
| 297 : a-nukar kusu
私は見たので | 316 : itak-an ciki
私が言うから |
| 298 : a-kourarcari
私は霞を散らして | 317 : pirka nu wa
よく聞いて |
| 299 : iki-an ine
私はそうして | 318 : i-kore ki yan
下さい |
| 300 : a-nukar ki ko
私が見ると | 319 : a-wenmatak
私の妹は |
| 301 : somo wa ne yakka
まさかと思ったが | 320 : sir ka sak pe
器量の劣った者 |

321 : nan ka sak pe
容貌の劣った者

322 : u ne yakkayki
ではあるけれど

323 : kotan kar kamuy
国土を造る神

324 : par osuke
の食事の世話をする (ために)

325 : uytek ko
使ったら

326 : pirka kuni
良いだろうと

327 : a-esanniyo
私は思う

328 : u ki wa kusu
それだから

329 : ru hontom ta
途中で

330 : a-ehuye wa
私は待って

331 : okay-an ruwe ne
私はいたのだ

332 : itak-an i
私の言うことを

333 : kamuy ne an pe
神である者

334 : mosir kar kamuy
国土を造る神

335 : a-koyaykatanu
に対して私は恐縮に思っ

336 : ki wa okay yakka
ているけれど

337 : ene ne yakne
このようにすれば

338 : kamuy nakka
神も

339 : ramusinne
安心して

340 : hosipi
帰る

341 : easkay kuni
ことができるだろうと

342 : a-esanniyo
私は思っ

343 : wa kusu
たので

344 : tapne
このように

345 : u arki-an na
私達は来たのだ

346 : ari an pe
ということを

347 : kamuy
神

348 : poyyaunpe kamuy, ano an itak pirka itak i-
kohosarire ki
ポイヤウンベ神が見事な言葉、良い言葉を私
に向け

349 : ru wa kusu, hetce-an wa, poyyaunpe mataki
ahupkar
たので、私は承知してポイヤウンペの妹をも
らった

350 : poyyaunpe
ポイヤウンベが

351 : ano an
見事な

352 : pirka isoytak
良い話を

353 : ikarire
したのを

354 : a-nu oro wa ta suy
私は聞いて

355 : a-koonkami
私は彼に礼拝した

356 : mat onkami
婦人の礼拝を

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| 357 : a-ki oro wa
私はしてから | 376 : anokay nakka
私も |
| 358 : aokay anak
私は | 377 : u yaynu-an kusu
私は思うので |
| 359 : kanto or un
天に | 378 : ramusinne ko pirka ari
安心してと |
| 360 : hosippa-an ko
私は戻ると | 379 : a-yupihi
私の兄に |
| 361 : poyyaunpe
ポイヤウンベは | 380 : a-ye ki ko
私が言うと |
| 362 : uni un
自分の家へ | 381 : mina tura
笑いながら |
| 363 : hosipi ki wa
戻って | 382 : hokurekure
さあさあ |
| 364 : aokay anak
私は | 383 : sipinpa
支度をしなさい |
| 365 : paye-an ayne
私が行ったあげく | 384 : siyupu ki yan
がんばりなさい |
| 366 : a-unihi
私の家 | 385 : ari itak kor
と言いながら |
| 367 : a-epa wa
に私が着いて | 386 : i-kosimewe
私を促した |
| 368 : inkar-an ko
私が見ると | 387 : ikici ki ko
そうして |
| 369 : poyyaunpe
ポイヤウンベが | 388 : saranpe amip
絹の着物 |
| 370 : matakihi
妹 | 389 : iwan kosonte
六枚の小袖に |
| 371 : kosontaiwa
? | 390 : a-tusaoposore
私は袖を通し |
| 372 : hetcere kusu
承知させるために | 391 : iwan kut
六本の帯を |
| 373 : koitak ki ko
彼女に向かって言うと | 392 : a-ekutkor
私は締めた |
| 374 : a-yupi tonu
私の兄上が | 393 : oro wa ta suy
そうして |
| 375 : yaynu koraci
思う通りに | 394 : kane sitoki
美しい首飾り |

395 : sikonkane sitoki
純金のシトキを

396 : a-rekutuyre
私は首にかけた

397 : oro wa ta suy
そうして

398 : kani tama
美しい玉を

399 : a-rekutuyre
私は首にかけた

400 : a-kisara nakka
私の耳にも

401 : ninkari
耳飾りを

402 : a-euyruke
私は付けた

403 : u ki oro wa
そうして

404 : saranpe
絹

405 : saranpe ari
絹で

406 : sapasina-an
私は頭を縛った

407 : oro wa
そうして

408 : u rok-an ki ko
私が座ると

409 : hokurekure
さあさあ

410 : kane pirakka
美しいピラッカ

411 : konkane pirakka
金のピラッカを

412 : e-us kuski na.
お前は履くんだよ

413 : ari an pe
と言うこと

414 : a-yupihi wa
私の兄から

415 : a-sanke
出されて

416 : pirakka
ピラッカを

417 : a-nukar ciki
私が見ると

418 : a-ye manu
噂に聞く

419 : kane pirakka
美しいピラッカ

420 : konkane pirakka
金のピラッカを

421 : a-cikirusi
私は足に履いた

422 : oro wa ta suy
そうして

423 : a-yuptonoke
私の兄に

424 : a-tura ki wa
私はついて

425 : kanto or un
天に

426 : urar ruyka a-situriire
霞の橋を私達は伸ばして

427 : u ka peka
上を

428 : a-yupi hoski
兄が先に

429 : oman ki ko
行くと

430 : u osi kayki
後から

431 : paye-an kor
私が行って

432 : okay-an ayne
私がいたあげく

- | | |
|---------------------------------|--|
| 433 : eattereke ta
一っ飛びに | 452 : unihi
彼の家 |
| 434 : kanto apa
天の入り口が | 453 : a-epa ciki
に私達が着いたら |
| 435 : u sara ki wa
現れて | 454 : apa or pakno
入り口まで |
| 436 : or pakno
中まで | 455 : paye-an ki ko
私達が行けば |
| 437 : uran ruyka
霞の橋が | 456 : cise upsor un
家の中へ |
| 438 : eoma ki ko
入ると | 457 : nen tap suy
誰が |
| 439 : ahup-an
私達は入った | 458 : eci-ahupte ya
お前達を入れるのか |
| 440 : inkar-an ko
私達が見ると | 459 : aokay anak
私は |
| 441 : kamuy kotan
神の国 | 460 : yaykoan pe
一人で暮らす者 |
| 442 : ne a kusu
であったので | 461 : a-ne a kusu
で私はあったので |
| 443 : pirka ruwe
美しい有様に | 462 : eci-ahupte utar ka
お前達を入れる人々も |
| 444 : a-erayap kor
私達は感心しつつ | 463 : a-uytek ussiw ka
私達が使う召使いも |
| 445 : ahup-an wa
私達は入って | 464 : inasimo
? |
| 446 : paye-an ayne
私達が行ったあげく | 465 : a-kar kusu
私は作るので |
| 447 : a-ye manu
噂に聞く | 466 : hokure ahup an
さあ入りなさい |
| 448 : kotan kar kamuy
村造りの神 | 467 : ari no ta suy
と |
| 449 : mosir kar kamuy
国土造りの神 | 468 : kani maw ne
美しい声で |
| 450 : kotanu
の村 | 469 : kamuy itak haw
神が言う声を |
| 451 : a-epa ki na
に私達はついたのだぞ | 470 : a-nuci ki ko
私は聞いて |

- 471 : a-yupi hoski
私の兄が先に
- 472 : rureye kane
半ば這うように
- 473 : yaykatanu ahun
恐縮して入った
- 474 : osi tapne
後ろから
- 475 : otop cinki
髪の下端を
- 476 : a-ciwcwte
私は垂らし垂らし
- 477 : ahup-an wa
私は入って
- 478 : inkar-an ko
私が見ると
- 479 : sonno kayki
本当に
- 480 : kamuy ne an pe
神様である者が
- 481 : u yaykoan wa an wa
一人で暮らしていて
- 482 : ene itak i
こう言った
- 483 : u neaurukusu
?
- 484 : a-yuptonoke
私の兄が
- 485 : ronnaso or
上座
- 486 : ehorari ko
に座ると
- 487 : aokay anak
私は
- 488 : oharkisoun
左座へ
- 489 : too usat ta
ずっと下座に
- 490 : yaykatanu
恐縮しつつ
- 491 : menoko
女の
- 492 : ene okay
このような
- 493 : pon ram mano
幼い頃から
- 494 : a-yupi
私の兄が
- 495 : i-resu p
私を育ててくれたもの
- 496 : ne a kusu
であったので
- 497 : menokoa
女の座り方を
- 498 : a-ki kane
私はしつつ
- 499 : etop cinki
髪の下端を
- 500 : a-oraciwre rok-an wa oka-an
私は垂れ下げて座っていた
- 501 : rok-an wa
私は座って
- 502 : okay-an ko
私がいると
- 503 : kamuy ne an pe
神様である者が
- 504 : a-yuptonoke
私の兄上
- 505 : kotekrikipuni
に手を高くかかげて
- 506 : ukoonkami
互いに礼拝する
- 507 : mat onkami
女性への礼拝を
- 508 : u kici oro wa
してから

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 509 : ta suy
こそ | 528 : tuki sikno
杯一杯に |
| 510 : siso or
右座 | 529 : u sanke ki wa
出して |
| 511 : orokioroki
? | 530 : a-yuptonoke
私の兄 |
| 512 : ikici ki ko
すると | 531 : kotarara
に捧げた |
| 513 : u kane tuki
美しい杯に | 532 : yaykoiyomare
自分に注いだ |
| 514 : u kane pasuy
美しい奉酒箸を | 533 : kamuy ne an pe
神である者が |
| 515 : u uyruke wa
置いて | 534 : kamuynomi oro wa
カムイノミをして |
| 516 : tasa ukte kane
互いにやり取りして | 535 : a-yuptonoke nakka
私の兄上も |
| 517 : ikici oro wa
そうして | 536 : u kamuynomi
カムイノミをした |
| 518 : kuneywa an pe
朝になることが | 537 : u ki oro wa
そうして |
| 519 : ene sirki
このようであった | 538 : ne wa an
その |
| 520 : u ne nankora
のであろうか | 539 : sake
酒を |
| 521 : kamuy ne hene
神であっても | 540 : kuci ki ko
飲むと |
| 522 : ki ap kusu
そうであるから | 541 : a-yuptonoke
私の兄上は |
| 523 : sake hok siri ka
酒を買う様子も | 542 : eatterke ta
一つ飛びに |
| 524 : sake kar siri ruwe ka
酒を作る様子も | 543 : ihoski ki wa
酔って |
| 525 : a-nukar ka
私は見も | 544 : tane tane
すぐにも |
| 526 : somoki yakka
しないのに | 545 : sakehawki anki
サケハウをしそうになった |
| 527 : u sake
酒を | 546 : kici korka
そうであるけれど |

547 : a-koiyonpa
私は合図した

548 : iyonpa
合図した

549 : ne wa an pe
それを

550 : eyayyupupu
兄は我慢して

551 : okay wa okay rapok ta
いる間に

552 : kamuy ne an pe
神である者は

553 : tuki sikno
杯に一杯

554 : sake o ki wa
酒を入れて

555 : i-kotarara
私に捧げた

556 : aynu are
人間が置いた…

3. 2. 英雄叙事詩テキスト注釈

以下では疑問の箇所、特に必要があると思われる箇所について、音声に関する情報や解釈の根拠となる資料をあげて注釈を施した。もとより、完全なものではなく、異論も多いことと思われる。今後も引き続き研究に努めたい。なお、資料の引用にあたっては、便宜的にアクセントや声門閉鎖音などの補助記号は省略してあるので詳しくは原文を参照されたい。

1 行目 : 「えー、遠島タネさんのユーカラです。」
という更科氏と思われる男性の声が入る。実際の発音は [ejerejae:ro:pe:] のような発音。(r は厳密には弾き音と思われるがこれ以後特殊な記号を用いず仮に r で表記する)。

3 行目 : 前の句の末尾の n の出わたりが a の前に現れて [kotannakara] のように発音されている。
kusu の su は [ʃu] に近い発音。

4 行目 : u は無意味な挿入音。

5 行目 : u は無意味な挿入音。

8 行目 : 実際の発音では句頭に mo といういいよどみの音声がある。

10 行目 : uwampare 「目も放たず見まもる」(久保寺1992 : 302)。

11 行目 : u は無意味な挿入音。

12 行目 : yakka は [jaka] のように聞こえるが文脈からこのように解釈した。

15 行目 : 佐藤 (2008 : 33) で扱った「異国船来航」(テキスト 4) の127行目に somo ki ko anakne という類似した形式が現れているので、分節

の仕方はともかく、「しないならば」というような意味を表す形式、と一応ここでは解釈しておく。

17 行目 : hepuni は佐藤 (2008 : 22) で扱った「有珠山の噴火」(テキスト 3) の253行目にも現れ、「復興する」という意味で用いられている。

18 行目 : 実際の発音では末尾に [ku:] のような発音が現れるが特定の言語形式に該当しないものと考えて表記しなかった。

21 行目 : kusu の su は [ʃu] に近い発音。この後、咳こんでいる。

22 行目 : ikori は不明の形式。実際の発音は [ikari] に近い発音。永田 (1891 [1984] : 198) には Ikori shuma 高岩「アプタ」土人「高キ」ヲ「イコリ」ト云フとあるので、後に aputa kotan 「虻田の村」という固有名詞が出てくることを考慮すると、あるいはこれに該当するものかもしれない。

23 行目 : u は無意味な挿入音。ta suy は不明。suy の su は [ʃu] に近い発音。

25行目：uは意味のない挿入音。

26行目：uwanpare は他動詞と思われるので -an が現れるのはおかしい。あるいは別の解釈が必要かもしれない。

27行目：usayne kane という連続はこれまでのところ類例が見いだされていないが、金成(1959：60)に usaine katap「これはいかなこと」という例がある。

31行目：実際の発音は [niwrotkirotki] のような発音。久保寺(1992：174)に「niurotke 酸い」とある。ここでは「(発酵して酸っぱくなるように) 泡立つ」と解釈した。

34行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。

35行目：不明の形式。金成(1961：92)に「konep-tap teta なんだったまあ」という例がある。文脈から考えて類似の意味を表す形式か。

42行目：実際の発音は、sirut と言いかけてから sirusci と言って、その後に cikappo と言っている。sirus-cir ヤマゲラ(幌別) 知里(1962 [1976]：193)と同じ意味の形式か。

43行目：uは意味のない挿入音。実際の発音は [uwariki] のような発音。suy は [ʃu] のような発音。

44行目：実際の発音は [pirika] のような発音。Batchelor (1938：393)に「piri An eddy」という語が記載されているのでこのように解釈したが、別の解釈の可能性もあると思われる。

45行目：金成(1963：168)に「chiturituri 延び延び」とある。実際の発音は turituri が [toritori] に近く聞こえる。

46行目：uは意味のない挿入音。

47行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。

48行目：知里(1962 [1976]：198)に「ahunras-ampe アオハヅク」(ホロベツ、チカブミ)とある。ここでの発音は ahurasampe のようにnがよく聞き取れない発音であるので仮にその形式で表記してある。

49行目：uは意味のない挿入音。実際の発音は

[uwariki] のような発音。

51行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。

52行目：siktokoko「目を見開き続ける」(千歳方言)という形式の tokoko と同じものであろう。

53行目：ha は意味のない挿入音か。久保寺(1992：102)に「inrapparappa 目くばせする」という形式が載る。

54行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。

56行目：服部(1964：303)に「nekona ne yakka 決して」(八雲方言)という例が載る。

61行目：uは意味のない挿入音。suma の su は [ʃu] に近い発音。

63行目：実際には句頭でaと口ごもっている。

64行目：実際には a-kota と言いかけてから kanto と言っている。

68行目：nomi は日本語の「鑿」か。

70行目：実際には usa ka と言いかけて咳き込み、tuci と発音している。

72行目：uは意味のない挿入音。

73行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。

76行目：実際には mosir kur と言いかけてから atuy と発音している。kurka ta の後で咳き込んでいる。

85行目：実際には [ijorowa] のように聞こえる。suy の su は [ʃu] に近い発音。

94行目：uは意味のない挿入音か。実際には[uwa ʃ] のように発音されている。konna は実際には [koanna] に近く聞こえる。あるいは別の解釈の可能性もあるか。

95行目：金成(1963：262)に「kinnatara きらびやか」とある。この形式と同じ語根 kin- を有する形式か。

100行目：実際には [hokari] のように聞こえるが、ここではこのように解釈した。あるいは別の解釈の可能性もあるか。

101行目：kor の r はよく聞き取れない。

103行目：too の後、「あの」と日本語で言ってから咳き込み、しばらく録音が中断する。

104行目：実際には [inewa] のように聞こえる。
 107行目：u は意味のない挿入音か。sirkop は不明の形式。あるいは他の解釈の可能性もあるか。
 109行目：u は意味のない挿入音か。実際には [uwajnu] のように発音されている。また、hetap の後、咳き込んでいます。
 113行目：anki の ki は [ke] に近い発音。
 116行目：句頭で a と口ごもってから a-okere と言っている。
 118行目：久保寺 (1992 : 290) に「shicari フンバル？」とある。語末の i は [e] に近い。
 121行目：too の後、咳き込んでいます。
 123行目：okere の目的語が kurka「上」というのは少々おかしい。あるいは別の解釈が必要か。
 131行目：実際には [inewan] のように発音されている。
 134行目：kusu (この su は [su] に近い発音) の後、咳き込んでいます。
 135行目：実際には [sineyan] のような発音。
 136行目：実際には uruka と発音した後、urar kur と発音してから ruyka と言っている。
 138行目：実際には [inei:] のような発音。あるいは別の解釈が必要かもしれない。
 141行目：un ruwe は解釈困難な形式。あるいは別の解釈が必要かもしれない。
 142行目：konkane か konkani か決定が困難である。ここでは聞こえたままを記し、あえて統一しなかった。
 146行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。
 147行目：orun は [ori'un] に近い発音。
 154行目：cinka は不明の形式。要検討。
 157行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。
 159行目：不明の形式。仮に訳したのが要検討。suy の su は [ʃu] に近い発音。
 161行目：不明の形式。実際の発音は ko ne ra ta に近い発音。suy の su は [ʃu] に近い発音。
 162行目：[hurakwemki] のような発音だが、仮にこのように解釈した。

163行目：実際には arenpak と言ってから a-er-anpewtek と言い直している。
 164行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。
 165行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。
 166行目：咳込んで発音が不明瞭だが、最後に kari と言っているのが聞こえる。前後関係から考えてこのように解釈してテキストを作成したのがなお一考を要する。
 167行目：[ikijan] という発音。
 168行目：[haj] のように聞こえるが、puray と解釈した。
 171行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。
 174行目：numposore は不明の形式。金成 (1966b : 68) に「shiyonumboso 無事に通り」という形式が載る。あるいは「無事に通り抜ける」意か。
 178行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。
 181行目：takaramono の後で笑い声になっている。
 188行目：u は意味のない挿入音。
 189行目：kamuy と言った後、[u:] と言いよんでいる。
 192行目：okay の後で咳き込んでいます。
 197行目：kusutap の su は [ʃu] に近い発音。
 198行目：末尾の an i は ani と発音されている。
 201行目：金成 (1959 : 122) に「ayakannata 汚らわし」とある。
 212行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。
 215行目：tuypu は不明。その後咳き込んでいます。
 217行目：kitay の後に「まあ、空窓だべ」と言っている。
 218行目：un は u (意味のない挿入音) かもしれない。
 220行目：実際には [ine] のような発音。
 221行目：u は意味のない挿入音。不詳の箇所。田村 (1996 : 517) に「pawci 頭をおかしくさせる害毒の神」とあるが、要検討。
 222行目：u は意味のない挿入音。
 225行目：実際の発音は [aekuʃnanukara] に近い

- 発音。金成 (1963 : 189) に「chikushna-nukar 通して見ることを」とあるのでこのように解釈した。
- 227行目：この行は節なしで言われている。
- 228行目：この行は節なしで言われている。ru は不詳の形式。要検討。
- 229行目：[makkunreʃuj] のように聞こえるが、前後関係から考えてこのように解釈した。
- 231行目：実際には kamuy と言ってから heru と言い直している。
- 232行目：[poniwano] のような発音。
- 233行目：okkayo の後で咳き込んでいる。
- 234行目：中川 (1995 : 108) に「okkayo kor pe racin racin 男のものがぶらぶら」とある。陰部の意か。だとするとこの箇所は直訳では意味が通りにくい。象徴的な意味合いがあるのであろうか。要検討。
- 235行目：静内方言には emkota「さあ早く」のような形式があるので仮にこう解釈したが問題のある箇所。ta suy のような形式が頻繁に現れる点から考えると、emko ta suy のように切れる可能性もある。その場合は emko は「半分」の意であると思われるが、そのままでは文意がよくわからない。金成 (1963 : 243) に「yarpe emko amatnepo aeresu kusu そのむつきの半分にわたしの娘をわたしたちが育てるから」とあり、「許婚の間であることの表現」と説明されているものと同類の表現か。要検討。suy の su は [ʃu] に近い発音。
- 236行目：oresu の su は [ʃu] に近い発音。
- 239行目：kamu と言ってから heru と言い直している。
- 240行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。235行目の注参照。
- 241行目：oresu の su は [ʃu] に近い発音。
- 242行目：[poniwano] のような発音。
- 244行目：ci と言ってから materaman と言い直している。
- 245行目：u は意味のない挿入音。
- 246行目：この行は節なしで言われている。
- 247行目：korka は実際には[kooka]に近い発音。
- 251行目：u は意味のない挿入音。
- 257行目：korka の後で咳き込んでいる。
- 258行目：金成 (1965 : 204) に「yaikush 危い、恥しい、ひやっとした」とある。実際の発音を考慮して yayekus と表記したが、なお検討を要する。
- 259行目：kusu の su は [su]。
- 267行目：kayki の後で咳き込んでいる。
- 268行目：kayki が前にあるので切れ目がはっきりしないが、他の箇所と同様、[ine] のような発音とみなすこともできる。
- 270行目：[ikijan] のような発音。
- 271行目：toy yays と言ってから yastoma と言い直している。
- 276行目：oro wa の後で録音が中断している。
- 277行目：yaysinire は節無しで言われている。その後、更科氏と思われる男性の声で「じゃその続き」と言っている。
- 281行目：u は意味のない挿入音。
- 284行目：実際の発音は[okajanajne]のよう な発音。
- 288行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。
- 290行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。
- 291行目：ayne の後、[ne e ne e] のような音声が入る。
- 294行目：awa の後、[ΦuaΦua] のような音声が入る。
- 297行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。
- 305行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。
- 309行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。
- 314行目：u は意味のない挿入音。
- 322行目：u は意味のない挿入音。yakkayki の後で咳き込んでいる。
- 328行目：u は意味のない挿入音。
- 330行目：服部 (1964 : 70) には ehuye「待つ」(八

- 雲方言) という形式が載る。
- 331行目：実際の発音は [okajani] だが、このように解釈した。また、ruwe ne の後、nanka と言いかけてやめている。
- 336行目：yakka は [yaka] に近い発音。okay に一人称主格接辞が付いていない点は問題であり、要検討。
- 343行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。実際にはそのあと、[uwauwauwa] のような音声が入っている。
- 345行目：実際の発音は [uwarujkejan] に近い発音。u は意味のない挿入音か。一応、このように解釈したが要検討。
- 347行目：kamuy と言ってから咳き込み、「おー困った」と言っている。その後録音が中断する。その後、更科氏と思われる「はい」という声が入る
- 348行目：以下の二行は節無しで言われている。i -kohosarire の前で i-kohe と言いかけてやめている。
- 349行目：ru は比較的はっきり発音されているが不詳の形式。kusu の su は [ʃu] に近い発音。hetce は千歳方言では「合いの手を入れる」意だが、それでは文意が通じないので仮にこう解釈した。要検討。最後に「うふふわかるか?」と言われて、更科氏と思われる男性が「わかんない」と言う声が入っている。その後、録音が中断され、「y ú kat で言うわ」と話者が言った後、更科氏と思われる男性が「うん」と言っている。
- 351行目：不詳の形式。仮にこう訳したが要検討。
- 353行目：不詳の形式。仮にこう訳したが要検討。
- 354行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。
- 356行目：不詳の形式。要検討。
- 357行目：oro wa の後で咳き込んでいる。
- 371行目：不詳。要検討。
- 372行目：hetcere の前に ko という言いよどみがある。kusu の su は [ʃu] に近い発音。
- 377行目：u は意味のない挿入音。yaynu-an は [ja-njujan] のような発音。kusu の su は [ʃu] に近い発音。
- 378行目：この行は節なしで言われている。
- 381行目：実際には [minna] のような発音。
- 386行目：不詳。久保寺(1992: 57)に「eishikomewe 強請す」とあるので仮にこう訳したが要検討。
- 390行目：a-tusaoposore の前で ae と口ごもっている。
- 393行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。
- 395行目：実際には [ʃukunkaniʃitoke] に近い発音。
- 396行目：不詳の形式。仮にこう訳したが要検討。
- 397行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。
- 399行目：不詳の形式。396行目も参照。
- 402行目：田村(1996: 848)に「yayeuyruke 自分に…を身につける」とある。a-euyruke の前で aeu と口ごもった後、咳き込んでいる。
- 403行目：u は意味のない挿入音。oro wa の後に [kei] という音声が入っている。
- 408行目：u は意味のない挿入音。rok-an は [ro-kan] のような発音。
- 418行目：[aimahanu] に近い発音。金成(1966 a: 247)に「ayemanu 噂の」とある形式に相当か。
- 421行目：[atʃikiri' uʃ] のような発音。
- 422行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。
- 426行目：urar kurka と言った後、ruyka と言いき直しているのでこのように解釈した。
- 427行目：u は意味のない挿入音。
- 430行目：u は意味のない挿入音。
- 431行目：[pajejan] のような発音。
- 435行目：u は意味のない挿入音。
- 422行目：kusu の su は [ʃu] に近い発音。
- 446行目：[pajejan] のような発音。
- 447行目：418行目の注を参照。
- 453行目：ciki の後で咳き込んでいる。
- 456行目：[upʃorun] のような発音。
- 457行目：suy の su は [ʃu] に近い発音。

461行目: kusu の su は [ʃu] に近い発音。
 465行目: kusu の su は [ʃu] に近い発音。
 475行目: cinki の ki は [ke] に近い発音。
 476行目: 不明の形式。要検討。
 481行目: u は意味のない挿入音。[jajkow-anwawanwa] のような発音。
 483行目: 不明の形式。kusu の su は [ʃu] に近い発音。
 485行目: [ronnaʃoro] のような発音。
 495行目: resu の su は [ʃu] に近い発音。
 496行目: kusu の su は [ʃu] に近い発音。
 500行目: この行は節無しで言われている。
 505行目: 実際には [kotekrupuni] のような発音。要検討。
 508行目: u は意味のない挿入音。
 509行目: suy の後で咳き込んでいる。
 513行目: u は意味のない挿入音。

514行目: u は意味のない挿入音。
 515行目: u は意味のない挿入音。
 520行目: u は意味のない挿入音。
 522行目: kusu の su は [ʃu] に近い発音。
 536行目: u は意味のない挿入音。
 537行目: u は意味のない挿入音。
 531行目: 実際には [kotararera] のような発音。
 536行目: u は意味のない挿入音。
 537行目: u は意味のない挿入音。
 538行目: [ine wa an] のような発音。
 547行目: 服部 (1964: 60) に「koiyonpa 合図する」(幌別方言) という形式が載る。
 549行目: [ine wa an] のような発音。pe の後で咳き込んでいる。
 552行目: 実際の発音では kamuy hu と口ごもってから kamuy ne an pe と言い直している。

3. 3. 英雄叙事詩テキスト索引

以下はテキストに出現する語、および人称接辞の索引である。解釈によっては別の形式が想定される可能性もあり、不明の形式や疑わしい形式も含まれており、あくまでも暫定的なものである。また、同音異義の形式は最低限の区別しか行っておらず、さらに細分化して示すべきものも同一項目として配列されている場合がある。なお、() 内の数字は出現回数、その他の数字はテキストの行番号を指す。

a-	(107)	3, 10, 13, 14, 18, 34, 38, 59, 63, 67, 71, 77, 84, 97, 101, 105, 111, 115, 116, 120, 124, 132, 133, 137, 149, 156, 163, 174, 194, 197, 199, 210, 219, 225, 228, 230, 236, 237, 241, 247, 254, 259, 264, 269, 273, 276, 278, 279, 280, 283, 287, 294, 297, 298, 300, 304, 308, 310, 315, 319, 327, 330, 335, 342, 354, 355, 357, 366, 367, 374, 379, 380, 390, 392, 396, 399, 400, 402, 414, 415, 417, 418, 421, 423, 424, 426, 428, 444, 447, 451, 453, 461, 463, 465, 470, 471, 476, 484, 494, 498, 500, 504, 525, 530, 535, 541, 547	ahup	(7)	157, 175, 222, 439, 445, 466, 477
			ahupkar	(1)	349
			ahupte	(2)	458, 462
			ahurasanpe	(2)	48, 79
			amip	(1)	388
an-	(71)	5, 7, 11, 19, 21, 23, 25, 26, 39, 40, 55, 65, 72, 78, 88, 89, 90, 102, 113, 114, 117, 128, 130, 134, 150, 151, 157, 158, 167, 175, 176, 186, 188, 198, 209, 211, 226, 228, 261, 262, 266, 270, 274, 275, 284, 290, 291, 299, 316, 331, 332, 349, 360, 365, 368, 377, 406, 408, 431, 432, 439, 440, 445, 446, 455, 477, 478, 500, 500, 501, 502			
a	(3)	442, 461, 496,			
ahun	(1)	473			

an(<yan)	(1)	466	eci	(2)	458, 462
an	(20)	30, 104, 131, 220, 246, 295, 305, 333, 346, 348, 351, 413, 480, 481, 503, 518, 533, 538, 549, 552	ehorari	(1)	486
anak	(7)	15, 230, 237, 358, 364, 459, 487	ehuye	(1)	330
anki	(2)	113, 545	eisoitak	(1)	199
ano	(2)	348, 351	ek	(1)	246
anokay	(1)	376	ekutkor	(1)	392
aokay	(4)	358, 364, 459, 487	emkota	(2)	235, 240
ap	(1)	522	ene	(7)	223, 248, 267, 337, 482, 492, 519
apa	(4)	160, 170, 434, 454	eoma	(1)	438
apasinasina	(1)	208	epa	(4)	156, 367, 451, 453
apesam	(1)	187	epitta	(2)	224, 228
aputa	(1)	292	eramuan	(1)	228
are	(1)	556	eranpewtek	(3)	18, 163, 269
ari	(8)	75, 251, 346, 378, 385, 405, 413, 467	erayap	(1)	444
arki	(3)	43, 49, 262	esanniyo	(4)	59, 84, 327, 342
as	(1)	94	esik	(1)	182
atasiri	(1)	260	esiknak	(2)	205, 246
atuy	(6)	28, 30, 33, 76, 81, 83	etop	(1)	499
awa	(4)	200, 226, 245, 294	euyruke	(1)	402
ayakannata	(1)	201	eyaykosiramsuye	(1)	133
ayne	(7)	167, 262, 284, 291, 365, 432, 446	eyayyupupu	(1)	550
aynenno	(4)	102, 120, 151, 214	eyererope	(1)	1
aynu	(7)	2, 16, 57, 109, 140, 177, 556	ha	(1)	53
caca	(1)	190	haw	(2)	246, 469
casi	(2)	98, 144	hawe	(2)	253, 314
ciki	(6)	40, 111, 315, 316, 417, 453	he	(2)	139, 140
cikirusi	(1)	421	hemanta	(1)	295
cinka	(1)	154	hemem	(2)	190, 191
cinki	(2)	475, 499	hene	(6)	86, 87, 227, 281, 282, 521
cise	(10)	99, 141, 142, 143, 166, 193, 213, 216, 217, 456	hepuni	(2)	17, 58
citurituri	(1)	45	heru	(3)	231, 239, 307
ciwciwte	(1)	476	hetap	(3)	107, 108, 109
e-	(2)	229, 412	hetce	(2)	249, 349
easkay	(1)	341	hetcere	(1)	372
eatteke	(3)	152, 433, 542	hi	(1)	82
			hok	(1)	523
			hokuerman	(1)	243
			hokure	(1)	466

hokurekure	(2)	382, 409	kani	(8)	62, 66, 68, 92, 98, 99, 398, 468
hontom	(1)	329	kanto	(6)	4, 64, 289, 359, 425, 434
horaociwe	(1)	186	kar	(12)	3, 63, 67, 202, 203, 246, 323, 334, 448, 449, 465, 524
horari	(1)	110	katu	(1)	110
hosipi	(2)	340, 363	kayki	(5)	248, 265, 267, 430, 479
hosippa	(5)	65, 274, 290, 291, 360	ki	(65)	5, 7, 13, 14, 23, 35, 43, 49, 52, 54, 60, 63, 67, 73, 115, 120, 160, 162, 164, 175, 183, 197, 200, 205, 214, 245, 246, 247, 251, 254, 273, 274, 276, 278, 280, 287, 294, 300, 318, 328, 336, 348, 357, 363, 373, 380, 384, 387, 403, 408, 424, 429, 435, 438, 451, 455, 470, 498, 512, 522, 529, 537, 540, 543, 554
hoski	(2)	428, 471	kici	(3)	257, 508, 546
i-	(6)	312, 318, 348, 386, 495, 555	kik	(1)	80
i	(4)	198, 232, 332, 482	kinnatki	(1)	95
ihoski	(1)	543	kinra	(1)	255
ikarire	(1)	353	kisara	(1)	400
iki	(5)	158, 167, 223, 270, 299	kitay	(3)	216, 217, 217
ikici	(3)	387, 512, 517	ko (接続助詞)	(30)	11, 15, 26, 55, 78, 90, 95, 176, 211, 254, 266, 300, 325, 360, 368, 373, 378, 380, 387, 408, 429, 438, 440, 455, 470, 478, 486, 502, 512, 540
ikohetari	(1)	256	ko (不明要素)	(5)	35, 106, 129, 159, 161
ikor	(1)	180	kohosarire	(1)	348
ikori	(2)	22, 24	koitak	(1)	373
inasimo	(1)	464	koiyonpa	(1)	547
ine	(2)	246, 299	konkane	(4)	142, 143, 411, 420
inkar	(10)	11, 39, 51, 78, 90, 117, 176, 368, 440, 478	konkani	(2)	93, 144
inrapparappa	(1)	53	konna	(1)	94
isam	(1)	250	koonkami	(3)	310, 312, 355
isoytak	(1)	352	kor	(10)	46, 101, 150, 193, 234, 238, 279, 385, 431, 444
itak	(9)	253, 314, 316, 332, 348, 348, 385, 469, 482	koraci	(7)	80, 168, 172, 179, 185, 306, 375
iwan	(2)	389, 391	kore	(1)	318
iyonpa	(1)	548	korka	(4)	29, 247, 257, 546
ka(上)	(7)	6, 20, 22, 24, 36, 216, 427,	kosicari	(3)	118, 119, 283
ka (否定、不定)	(10)	28, 29, 147, 320, 321, 462, 463, 523, 524, 525	kosimewe	(1)	386
kamuy	(31)	108, 139, 178, 179, 180, 181, 189, 193, 202, 203, 231, 239, 246, 252, 258, 307, 323, 333, 334, 338, 347, 348, 441, 448, 449, 469, 480, 503, 521, 533, 552	kosinewe	(1)	132
kamuynomi	(2)	534, 536			
kane (助詞)	(10)	27, 41, 71, 100, 137, 149, 394, 472, 498, 516			
kane (金)	(5)	182, 410, 419, 513, 514			

kosirepa (1)	264	mina (1)	381
kosituri (1)	145	monrayke (4)	115, 118, 204, 279
kosontaiwa (1)	371	mosir (7)	8, 36, 202, 246, 285, 334, 449
kosonte (1)	389	mosirkar (4)	14, 74, 88, 119
kotan (11)	2, 9, 16, 37, 57, 203, 286, 292, 323, 441, 448	na (7)	89, 228, 236, 251, 345, 412, 451
kotankar (2)	13, 89	nakka (4)	338, 376, 400, 535
kotanu (1)	450	nan (1)	321
kotarara (2)	531, 555	nankora (1)	520
kotekrikipuni (1)	505	ne (コピュラ) (46)	12, 28, 29, 30, 33, 56, 83, 104, 107, 108, 131, 134, 138, 153, 160, 162, 171, 177, 178, 220, 222, 228, 231, 239, 255, 259, 268, 301, 303, 309, 322, 331, 333, 337, 442, 461, 468, 480, 496, 503, 520, 521, 533, 538, 549, 552
kotomno (1)	303	ne (不明要素) (2)	159, 161
kourarcari (1)	298	neaurukusu (1)	483
koyaykatanu (2)	194, 335	neci (1)	308
kuci (1)	540	nekona (5)	12, 56, 106, 129, 229
kuneywa (1)	518	nen (2)	204, 457
kuni (3)	83, 326, 341	nenno (1)	82
kunne (2)	86, 281	nep (1)	35
kurihi (1)	296	ninkari (1)	401
kurka (6)	8, 9, 37, 76, 81, 123	nispa (1)	306
kurkasi (1)	96	niwrotkerotke (1)	31
kurkasike (2)	155, 293	no (3)	210, 269, 467
kus (1)	294	nomi (2)	68, 69
kuski (1)	412	nu (3)	315, 317, 354
kusnanukar (1)	225	nuci (3)	247, 254, 470
kusu (26)	3, 21, 34, 51, 54, 134, 146, 157, 164, 171, 178, 221, 259, 290, 297, 305, 328, 343, 349, 372, 377, 442, 461, 465, 496, 522	nukar (9)	34, 101, 105, 111, 297, 300, 304, 417, 525
kusutap (2)	197, 309	numposore (1)	174
kut (1)	391	nupki (1)	32
mano (1)	493	nupuri (7)	6, 20, 92, 93, 131, 153, 154
manu (2)	418, 447	o (2)	170, 554
mat (3)	191, 356, 507	oarar (1)	250
mataki (1)	349	oharkisoun (1)	488
matakihi (1)	370	oka (4)	102, 134, 151, 500
materaman (1)	244	okamkino (1)	206
matkon (1)	229	okari (3)	100, 166, 213
maw (1)	468		
menoko (3)	238, 491, 497		

okay	(23)	7, 40, 46, 139, 140, 146, 173, 183, 192, 211, 226, 228, 245, 268, 275, 284, 331, 336, 432, 492, 502, 551, 551	poro	(1)	50
okere	(5)	116, 124, 285, 286, 287	poyyaunpe	(6)	302, 348, 349, 350, 361, 369
okkayo	(2)	233, 234	puray	(6)	162, 168, 169, 171, 172, 218
oman	(1)	429	purayseske	(1)	209
omanan	(1)	82	ram	(1)	493
onkami	(2)	356, 507	ramusinne	(2)	339, 378
onuytasa	(1)	311	ranke	(1)	117
or(ot)	(11)	64, 112, 127, 147, 289, 359, 425, 436, 454, 485, 510	ranpe	(1)	252
oraciwre	(1)	500	rap	(4)	5, 21, 23, 72
oresu	(2)	236, 241	rapok	(1)	551
oro	(24)	4, 47, 85, 105, 125, 128, 265, 270, 275, 276, 278, 288, 313, 354, 357, 393, 397, 403, 407, 422, 508, 517, 534, 537	re	(2)	165, 212
orokioroki	(1)	511	rek	(2)	46, 246
osi	(2)	430, 474	rekutuyre	(2)	396, 399
osuke	(1)	324	rep	(1)	91
ota	(1)	122	rera	(1)	185
otop	(1)	475	resu	(1)	495
p	(2)	257, 495	rik	(1)	169
pakno	(4)	116, 127, 436, 454	rok	(7)	25, 44, 188, 192, 408, 500, 501
par	(1)	324	ronnaso	(1)	485
pasuy	(1)	514	ru	(5)	159, 161, 228, 329, 349
pawci	(1)	221	rupne	(1)	191
paye	(7)	113, 128, 150, 365, 431, 446, 455	rureye	(1)	472
pe	(20)	30, 104, 134, 220, 234, 238, 246, 295, 320, 321, 333, 346, 413, 460, 480, 503, 518, 533, 549, 552	rusuy	(1)	229
peka	(1)	427	ruwe	(5)	141, 228, 331, 443, 524
peker	(1)	83	ruyka	(4)	136, 148, 426, 437
pirakka	(5)	410, 411, 416, 419, 420	sak	(2)	320, 321
pirka	(10)	44, 122, 126, 263, 317, 326, 348, 352, 378, 443	sake	(5)	523, 524, 527, 539, 554
poho	(2)	230, 237	sakehawki	(1)	545
pon	(2)	232, 493	sanke	(2)	415, 529
poni	(1)	242	sapasina	(1)	406
			sara	(1)	435
			saraha	(1)	45
			saranpe	(3)	388, 404, 405
			sarare	(1)	219
			se	(1)	71
			sikihi	(1)	50
			sikno	(2)	528, 553

sikonkane	(1)	395	too	(4)	91, 103, 121, 489
sinean	(1)	135	toy	(2)	271, 272
sipinpa	(1)	383	tu	(2)	165, 212
sir	(1)	320	tuci	(5)	61, 62, 66, 70, 75
sirepa	(1)	198	tuki	(3)	513, 528, 553
siri	(6)	33, 204, 222, 227, 523, 524	tura	(2)	381, 424
sirki	(1)	519	turi	(2)	137, 149
sirkop	(1)	107	tusaoposore	(1)	390
siruscikappo	(1)	42	tuypu	(1)	215
siso	(1)	510	u	(42)	4, 5, 11, 23, 25, 43, 44, 46, 49, 54, 61, 72, 94, 107, 109, 188, 221, 222, 245, 251, 253, 281, 314, 322, 328, 377, 403, 408, 427, 430, 435, 481, 483, 508, 513, 514, 515, 520, 527, 529, 536, 537
sitoki	(2)	394, 395	ukoonkami	(1)	506
siturire	(1)	426	ukte	(1)	516
siyupu	(1)	384	un (格助詞)	(7)	112, 147, 289, 359, 362, 425, 456
somo	(5)	28, 29, 177, 260, 301	un (不明要素)	(1)	141
somoki	(2)	15, 526	un (動詞)	(2)	169, 218
somosarare	(1)	210	uni	(1)	362
sonno	(1)	479	unihi	(2)	366, 452
soyonpa	(1)	261	upsor	(1)	456
suma	(1)	61	uran	(2)	148, 437
suy	(20)	24, 43, 47, 60, 73, 85, 159, 161, 165, 212, 235, 240, 288, 354, 393, 397, 422, 457, 467, 509	urar	(2)	136, 426
ta (格助詞)	(14)	6, 22, 24, 36, 44, 64, 81, 91, 135, 187, 265, 329, 489, 551	us	(1)	412
ta (不明要素)	(19)	24, 35, 43, 47, 60, 73, 85, 152, 159, 161, 288, 354, 393, 397, 422, 433, 467, 509, 542	usa	(2)	69, 70
takaramono	(1)	181	usat (<usar)	(1)	489
tama	(1)	398	usayne	(2)	27, 41
tane	(4)	112, 112, 544, 544	usi	(6)	17, 58, 126, 249, 263, 304
tap	(1)	457	ussiw	(1)	463
tapne	(11)	125, 147, 195, 207, 224, 228, 246, 296, 313, 344, 474	utar	(1)	462
tasa	(1)	516	uwanpare	(5)	10, 26, 38, 77, 97
terke	(1)	152	uwaruykeyan	(1)	345
to	(1)	135	uyruke	(1)	515
tokap	(2)	87, 282	uytek	(2)	325, 463
tokoko	(1)	52	wa (接続助詞)	(67)	5, 7, 19, 23, 25, 30, 39, 43, 44, 49, 52, 54, 60, 63, 65, 67, 73, 104, 124, 131, 145, 156, 164, 175, 183, 188, 192, 205, 219, 220, 228, 241,
tono	(1)	374			

245, 246, 246, 246, 261, 267, 268, 273, 274, 305, 317,	yakkayki (1)	322
328, 330, 336, 343, 349, 349, 363, 367, 414, 424, 435,	yakne (1)	337
445, 477, 481, 481, 500, 501, 515, 529, 538, 543, 549,	yan (2)	318, 384
551, 554	yastoma (1)	272
wa (格助詞) (24) 4, 20, 47, 85, 105, 125,	yayekus (2)	258, 271
128, 270, 275, 276, 278, 288, 313, 354, 357, 393, 397,	yaykatanu (2)	473, 490
403, 407, 422, 508, 517, 534, 537	yaykatanuno (1)	184
wa (不明要素) (1) 301	yaykoan (2)	460, 481
wan (2) 165, 212	yaykoiyomare (1)	532
wano (3) 232, 242, 260	yaynu (8)	19, 55, 114, 196, 227, 266, 375, 377
wen (1) 255	yaysinire (3)	276, 277, 278
wenmataki (1) 319	ye (3)	380, 418, 447
ya (3) 160, 162, 458	yupi (4)	374, 428, 471, 494
yaci (1) 29	yupihi (2)	379, 414
yakka (9) 12, 56, 114, 130, 158, 194, 301, 336,	yuptonoke (6)	423, 484, 504, 530, 535,
526	541	

4. おわりに

本稿では、更科源蔵氏採録の虻田町遠島タネランケ氏による英雄叙事詩を分析し、その言語的特色について述べた。その結果は佐藤 (2008) で述べたものと著しく矛盾するものではなかったが、なお、多くの問題が未解決のまま残されている。今後も資料の追加によってこの方言の解明に努力したいと考えている。

参考文献

- Batchelor, J. 1938. *An Ainu-English-Japanese Dictionary*. 4th ed. 岩波書店.
- 知里真志保. 1962 [1976]. 『分類アイヌ語辞典第二巻動物篇』(日本常民文化研究所彙報第87). 日本常民文化研究所. (『知里真志保著作集別巻Ⅰ』. 平凡社. 所収)
- _____. 1974. 「アイヌ語法概説」. 『知里真志保著作集4』. 平凡社. 5-197.
- 服部四郎(編). 1964. 『アイヌ語方言辞典』. 岩波書店.
- 金成マツ筆録・金田一京助訳注. 1959. 『アイヌ叙事詩ユーカラ集Ⅰ』. 三省堂.
- _____. 1961. 『アイヌ叙事詩ユーカラ集Ⅱ』. 三省堂.
- _____. 1963. 『アイヌ叙事詩ユーカラ集Ⅲ』. 三省堂.
- _____. 1965. 『アイヌ叙事詩ユーカラ集Ⅴ』. 三省堂.
- _____. 1966 a. 『アイヌ叙事詩ユーカラ集Ⅵ』. 三省堂.
- _____. 1966 b. 『アイヌ叙事詩ユーカラ集Ⅶ』. 三省堂.
- 久保寺逸彦. 1992. 『アイヌ語・日本語辞典稿』. 北海道教育委員会.
- 永田方正. 1891 [1984]. 『北海道蝦夷語地名解』. 北海道庁. (復刻: 草風館).
- 中川裕. 1995. 『アイヌ語千歳方言辞典』. 草風館.
- 更科源蔵. 1981. 『アイヌの神話』. みやま書房.
- 佐藤知己. 1995. 『「蝦夷言いろは引」の研究』. 北海道大学文学部.
- _____. 2002. 「アイヌ語千歳方言の kane の用法」. 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』8. 北海道立アイヌ民族文化研究センター. 61-88.
- _____. 2008. 「アイヌ語古文獻における言語学的諸問題」. 『北海道大学文学研究科紀要』124. 北海道大学大学院文学研究科. 153-180.
- _____. 「伊達地方のアイヌ語方言の言語的特徴」. 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』14. 北海道立アイヌ民族文化研究センター. 1-54.
- 田村すず子. 1996. 『アイヌ語沙流方言辞典』. 草風館.

A Text of a Heroic Epic of the Abuta Dialect of Ainu and Its Linguistic Characteristics
SATO Tomomi

Summary :

Sato (2008) investigated a number of texts transcribed from audio tapes recorded about forty years ago by Prof. Genzo Sarashina, a scholar very famous for his study of the Ainu ethnography and literature. Here, another text, which is a text of a heroic epic from the same source, is investigated from both phonetic and grammatical points of view. For example, morphophonemic alternations, aspectual expressions, the verbal suffix *-ci* peculiar in its dialectal distribution, lexical peculiarities, etc. are dealt with. A number of characteristics similar to those in neighboring important dialects, such as the Horobetsu dialect, are found, and they are assumed to be very useful in understanding these dialects more specifically, which do not have almost any audio recordings.

Key words :

the Abuta dialect of Ainu, heroic epic, grammatical and lexical characteristics